

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974300093		
法人名	株式会社 エース		
事業所名	グループホーム太陽十津川 折立の郷		
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364-1		
自己評価作成日	平成24年7月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成24年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と地域住民との交流を大切にし、利用者様とその家族様が安心と希望のある生活が実現できるように支援します。具体的には好みの衣服やカット・毛染めなど、おしゃれへの意識を高め喜んで頂けるよう支援しています。さらに、お化粧を楽しんで頂きかわいいお年寄りを目指して支援していきたいと思っています。認知症ケアに付いて、基本は1人1室ですが2人で就寝してもらうことによって、深夜の徘徊が改善された利用者様もおられ、驚いています。固定概念や先入観にとらわれない支援を心掛けていきたいです。また、多様化するニーズに対応できる体制作りにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

村立の大型施設からはみ出た方や、窮地に追い込まれた家族の要望などを受け入れる駆け込み寺的施設として始まった当ホームではあるが、時代のニーズを把握し、次々と新たな介護サービスを当地に合った形で取り入れ事業を拡大し、行政や地域から受け入れられる施設に発展した。ハード面では手一杯の状態ではあるが、職員のゆったりおらかな支援が、雰囲気をおおらかにしている。大きな自然災害を経験され、利用者や地域の方と共に乗り越えてきた体験は、より地域に根をはった事業所として期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等を通して施設長等の指示があり、理念は共有されています。職員だけでなく地域の方々にも、運営推進会議等で理念を知って頂くため、資料として添付しています。	年初には施設長から事業所の取り組みや運営理念が話されるが、日常のなかでも疑問に思ったり、気づいたときはすぐにミーティングを開いて理念の共有を図っている。また運営推進会議でも理念を示し、地域に周知してもらうための努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前回の期待したい内容における指摘もあり、地域行事に参加するだけでなく、グループホームが主催者となって夏祭りやクリスマス会を開催し、地域の方々に参加して頂きました。	例年行なっている地域行事への参加、小・中学校の実習受け入れなどの他に、事業所主催の夏祭り、クリスマス会を実施した。大勢の地域住民が来られ、出店もあり子供達にも好評であった。	立地条件など困難な条件のなかで、地域住民に大好評であった事業所行事を定着させるために、協力機関(行政、社協、老人会、青年団、婦人会、小・中学校など)や協力的な人々を巻き込んで、人的援助を図り、この行事を継続させるための新たな取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業として訪問介護、デイサービス事業、介護タクシー事業、新たに介護付高齢者住宅の建設し、1人暮らしが困難な方々が生活されています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見について、2階からの避難経路やスプリンクラーを設置しましたが、避難経路については、新たな通路建設を計画し、避難ルートもバリアフリー化して、より安全な対策をしています。(24年完成)	役場福祉事務所、総代さん、老人会長、消防署職員などの参加を得て、運営推進会議と避難訓練が実施された。次回避難訓練は夜間を想定して実施の予定。	運営推進会議では外部評価結果、目標達成計画なども議題に上げ、事業所の現状開示とレベルアップにつなぐために運営推進会議をより一層生かす取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者がその都度訪問して下さり、こちらが役場へ出向いたりと密な連携を保っています。介護付高齢者住宅建設にあたっては、社会福祉協議会ケアマネ様の意見も交えて議論しました。	村立施設に入所できない時の駆け込み寺になっているため、村担当者とは頻繁に交流がある。独居が無理になった高齢者や社会福祉協議会のケアマネの要望などがあり、介護付高齢者住宅を建設した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等において理解しているが、十津川の水の危険、国道においては大型トラックが行きかう現状を踏まえ、玄関・夜間の施錠は行っています。安全のためベッド柵を使用する場合には、家族様の承諾を得てから使用しています。	事業所前は急な坂道で、すぐ近くに通行車両の多い国道や、十津川が流れているため入口には鍵をかけている。1名の方が夜間ベットの柵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等において身体的・性的・心理的・経済的・介護放棄を軸に虐待防止の研修をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はおられませんが、成年後見制度は介護福祉士の受験範囲にもなっていることから、ミーティング等で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、利用者様や家族様の不安や疑問点をお聞きし、十分な説明を行い理解、納得をして頂いております。また、入所後にできた課題については家族様とも相談の上、誠意をもって対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者様や家族様の意見や要望をお聞きしております。日々の生活における利用者様の声も重要な情報と考えております。その事がミーティングの議題へとつながります。	家族来訪時や運営推進会議などで意見や要望を聞いている。気になることはすぐにミーティングの議題に取り上げ、話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のミーティングや研修の中だけでなく、常に職員の意見や提案に耳を傾けています。その事がミーティングの議題へとつながります。	職員からの意見は忘れないようメモに残し、ミーティングで話し合い職員の共通認識としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として職員個々の勤務状況を把握しています。また、仕事と生活の調和を目標としています。(ワーク・ライフ・バランス)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修だけでなく、資格の重要性や取得についても、助言や日程調整、費用負担等の配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良の事業所との密な交流だけでなく、村が企画する研修等にも積極的に参加しております。23年においては台風12号水害の影響もあり、24年になってから福祉リーダー研修会が行われ、当職員も4名参加させて頂きました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談や面接時に不安や思いをお聞きし把握しています。理解が困難な事に対しても十分に話を聞いて本人の安心を確保しています。また、いつでもお気軽に施設の様子を見学して頂けます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接において、家族様の希望や思いを聞き、共感的な姿勢で対応しています。希望があればいつでも見学に来て頂けます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	村の職員やケアマネ等、他の機関との連携も回り情報を共有し、本人や家族様のニーズに対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、「アットホーム」な雰囲気大切に、洗濯、掃除、調理補助等、各利用者様に応じたお手伝いをお願いしたり、親しさの中にも尊厳を忘れない会話を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた時に情報交換をしたり、元気に過ごされている様子や行事に参加した写真等を送らせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や病院、近所を散歩中に知り合いの方から声をかけられ楽しそうに会話されています。住んでいた家の様子を見に行く事もあります。	入居者のほとんどは近隣の方で、散歩途中や村の行事、花見など出かけた先で会えば、懐かしく会話されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、席替え等の参考にしています。相性の悪い方との関係についても、ゆっくりとですが改善していけるよう努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、何かあればいつでもご相談下さいと声をかけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の希望や思いをお聞きし、可能な限り実現するよう努力しています。理解しがたい場合においても拒否せず、本人の思いや訴えと捉え対応しています。	しゃべれる人が多いので納得してもらえるようにじっくり会話したり、スキンシップで気持ちを和らげて思いを知るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者様のファイルにフェイスシートやサマリーが綴じられています。ご本人からも回想法を利用して情報を得て、職員間で共有しています。ここで知り得た情報は守秘義務として扱われています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌にバイタルチェックや気付いた事を記録し、情報を共有しています。課題に対してはミーティングをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや日々の会話の中で課題を明確にし、家族様の希望をお聞きし、現状に即した計画になるよう努めています。	これまでケアマネージャーが遠方から来ていたため、家族意見の反映や状態に即した見直しが出来ていなかったが、施設長がケアマネ資格を取得されたので、これからはじっくり取り組めると思われる。	利用者や家族の思いを反映させた介護プラン～モニタリング～アセスメントのサイクルが流れることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人別日誌や業務引継日誌を活用し、情報の共有に努めています。よりよい記録となるよう皆で話し合い、改善にも努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスやショートステイ、病院送迎、介護付高齢者住宅も完成し、幅広いニーズに対応できる体制作りに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元折立で生活されていた利用者様も入所されています。地域の行事には積極的に参加し、地域を支える1人としての役割を担って頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	救急搬送にも時間がかかる地域でもあり、診療所や開業医との関係は強く、往診にも対応して頂いています。また、家族様の中には院内付添いをして頂ける方もおられます。	受診表を作成し、受診時にはこれを持って行ってその場で記録し、これをもとに家族に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日、看護師が利用者一人一人と密に関わりながら、相談及びケアをしています。介護職員との情報共有を大切に、手当、治療、受診等、適切に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	過去の事例を通じて、入退院時の医療機関との協力は大切にきてきています。特に生活保護受給者の方の判断は難しく役場担当者と連携し対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針は実施しています。23年には台風災害時に終末ケアのケースがあり、家族様、医療、行政だけでなく、地域の方々にも支援に加わって頂きました。	看取り支援をされている。平成23年台風12号の災害時に通常では考えられない状態でのターミナルケアと利用者の避難を体験した。施設長、管理者、職員の皆さんの冷静な判断と実行力により窮地を乗り越え、事業所の日頃の行政や住民の方との付き合いが結果として反映されたと思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における連絡体制の強化、AED設置に伴い講習も受けています。今後も定期的な研修や訓練を実施していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、火災通報装置やスプリンクラーを設置しております。台風12号災害時には、地域の方々の支援に支えられて避難所で生活をさせて頂きました。	2階の避難用出口を頑丈に作り変え、緊急通報装置やスプリンクラーも設置済みである。近くにある消防署の分団職員を交えて避難訓練を実施している。	利用者の足腰の衰えや、事業所の立地条件を考えると、夜間を想定した訓練は必要と思われる。次回の訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにおいて研修を重ねています。不適切な言葉かけに対しては、即ミーティングを実施しています。プライバシーに関しては、排泄や入浴時における同性介助を徹底しています。	利用者や家族が気にすることは言わないように注意している。出来るだけ自然体で接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ADLやIADLだけでなく、娯楽等に対しても可能な限り希望を聞くよう心掛けております。また、希望を実現するために、ミーティング等での議題や課題へとつながっていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制の関係から希望に沿えない事もあるかもしれませんが、利用者様の希望や思いに対しては、可能な限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に理容師・美容師の資格者がおり、カットだけでなく、希望者には毛染めをして、おしゃれについても支援しております。かわいいお年寄りを目指しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備として、皮むきやスジ取りをして頂いています。食事前には口腔体操や首の運動等に参加して頂き、誤嚥防止に努めています。のどに詰めたりの危険を察知するため、利用者様と職員と一緒に食事はしません。	デイサービスの方や介護付き住宅の方も一緒に昼食を取られるので、和気あいあいと良い雰囲気であるが故に、ハード面でもう少し余裕のある食堂であればと感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量やメニューを記録し、水分チェックを記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼食後は口をゆすいで頂き、夕食後は歯磨きや義歯洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあり、ご自身で排泄される方が多いです。トイレ誘導やオムツ交換が必要な方にはプライバシー保護や尊厳を忘れず介助しています。オムツ使用を必ずしも否定せず、むしろオムツを利用してでも外出する支援をしています。	オムツ使用者は2名おられるが、居室にトイレがあるので自分でトイレに行かれる方も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や声掛けによって便秘になっていないかを確認しています。必要に応じて処方された薬を使う事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉や足湯へ出かけることもあります。入浴チェック表を使って入浴状態を把握しています。決まった曜日や時間はなく、利用者様の了解を得てから入浴して頂いています。	入浴チェック表で状態の把握をし、「汚れていたら入ろう」を合言葉に実施している。利用者に好評の温泉施設での入浴は、台風被害以来少し遠のいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後にお昼寝されたり、自由に過ごして頂いています。深夜に目が覚めた方などに対しては、会話やおやつ等を状況に応じた対応をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルに用法や用量、効能、注意点を記載し、薬も各利用者ごとに袋詰めして工夫しています。服薬した事による症状や状態の変化が著しい場合には、医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の口腔体操のリーダー役や、掃除や野菜の皮むきといった役割や、お酒が好きな利用者様には晩酌等も楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日に近所を散歩に出かけたり、車に乗って足湯へも出かけます。地域の行事や村のイベントにも参加しております。	車で出かける時は、オムツをしてでも皆で出かけるようにしている。お弁当を持って楽しそうな花見の写真が張り出されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については、ご本人と家族様との話し合いにより対応しております。また、お金を使う機会が少ないので、地域行事や近所へ買い物に行ったりしたときに支援し実施しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日記を書いている方がおられます。家族様から施設へ電話があり、利用者様へ取り次いでおります。利用者様が希望されれば家族様へ電話をかけています。今後の課題として手紙のやり取りについても議論しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾って、季節感を演出しています。会話の中にも季節を感じるよう工夫しています。廊下には生活や行事の写真を展示し、その時の事を思い出して頂けるのではないかと期待しております。	窓からは生々しい傷跡を残したままの山が見えているが、廊下に張り出されている楽しそうな写真と、利用者の笑顔が共用空間を心地よくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるホールには、椅子やソファをおいて、1人または複数で過ごせる空間にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様のADLにも配慮し、ベッド使用や畳を敷いたりしています。また、趣味や思いを大切にした生活が送れるように工夫しています。	トイレ、洗面台の設置された各居室は、ベットがあたり畳みを敷いたり各人の住みやすい部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様のADLにも配慮し、1階と2階に振り分けています。段差をなくし手すりをつけて安全な歩行ができるよう努めています。センサー付きの蛇口を取り入れ自立を支援しております。居室のドアには表札をつけ分かりやすくしています。		